

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

多様な生活背景と学習面を含む様々な課題を抱えた生徒達、この生徒達の高校生活を頑張ろうとする思いを支え、自ら進路を切り開くたくましい社会人を育成する。

生徒達が高校生活を通じて将来への夢を育み、その実現に向けてチャレンジする力を育てる。

自尊感情の回復・育成を図ると同時に他者を理解し豊かな人間関係を築く力を育てる。

生徒の生活背景を理解し、一丸となって上記の学校像をめざす教職員集団が存在する学校づくりをすすめる。

## 2 中期的目標

## 1 学ぶ意欲を育み、基礎学力の定着を図る。

## (1) 基礎・基本的事項の確実な定着を図る。

ア 学び直しの科目「教養A」をはじめとして全教科において基礎的事項の確実な定着を図る。また、「教養A」の取組みと成果からすべての授業に普遍化できるものを学校全体で確認する。

## (2) 学ぶ意欲を育むため、わかる授業の創造と授業力の向上を図る。

ア 学ぶ意欲を育むため、わかる授業(=「ああ、そうなんか」「そんなふうになるんや」といった、気持ちを動かす授業)を全教科で創造していく。また、生徒の実態に即して、少人数展開授業や習熟度別授業などの効果的な活用を図る。

イ 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに教員一人ひとりの授業力を向上させる。

ウ 基礎学力の定着度を測定できるテストを実施し、各教科で学習内容の精選、再検討を行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業に対する肯定的な回答を3年後には70%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「教養A」の授業に対する肯定的な回答を3年後には80%以上にする。

## 2 夢を育み、将来構想能力の育成を図る。

(1) 卒業後の生き方を考えさせ、「夢」を育む力をつけてゆく。そのために、現在取り組んでいる「総合的な学習の時間」(以下「FC」)、教養体験、教養Cの内容を検討し、自尊感情の育成に加えて、自己認識が深まるような内容を検討していく。

(2) 造形コースの内容を充実させ、進路実現につなげる。

(3) 職業適性診断テストの実施も含め、全ての教育内容を通じて将来構想能力の育成を図り、生徒の将来の夢を育むとともに、進学から就職までの多種多様な進路希望を実現させるためのきめ細やかな指導を行い、進路未決定率を減少させる。

※生徒向け学校教育自己診断における人の生き方に関する項目における肯定率を3年後には70%以上にする。

※造形コース選択生徒の「美術」の授業に対する肯定的な回答を3年後には80%以上にする。

※進路未決定率を3年後には0%にする。また、生徒の希望する進路の実現率を3年後には80%以上にする。

## 3 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成を図る。

(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに頭髪など生活指導のさらなる徹底を図り、通学マナーを向上させる。

ア 遅刻指導を強化し基本的生活習慣の確立を期するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。

イ 頭髪指導の徹底を図り、自転車の二人乗りをなくすなどの取組みを強め、地域に信頼される学校を確立する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 部活動の育成をはかり、加入率を高める。

(3) 人権教育、国際理解教育をすすめ、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。

ア ESD学習を本校の生徒実態から再検討し、人間関係トレーニングとの連動を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における規範意識に関する項目における肯定率を3年後には70%以上にする。

※遅刻総数を3年間で30%の減少をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事に対する満足度を3年後には80%以上にする。

※部活動の加入率を3年後には50%に近づける。

## 4 家庭、地域との連携を強化し、個々の生徒への支援体制を一層充実させるとともに、丁寧な生徒指導を更に推進する。

(1) 生徒理解と中退防止の取組みを更に組織的に発展させる。

ア 生徒の複雑な生活背景をつかむ取組みを進める。家庭連携、中高連携を更に進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担任会、保健・相談部会、教育相談連絡会、支援委員会などで組織的に検討し、個別の指導計画の作成の対象を更に広げてゆく。

(2) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり

ア 地域清掃活動及び地域の高齢者施設、幼稚園、支援学校等との交流活動の充実を図る。

イ PTA活動を推進し、家庭との協力体制を更に充実させる。

ウ 広報活動を活発に行い、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。

※学力保障等の取組みと併せて3年後には中退率を3%以下に減少させる。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度を80%台で維持する。「お知り合いに本校へ進学を勧めたいか」の肯定的回答を3年後には70%以上にする。

## 5 教職員の資質向上とOJTの充実

(1) 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験の少ない教員の資質向上を学校の課題とする。

(2) 本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が引き継がれるようにOJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。

(3) 校務処理システムのスムーズな導入等ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ○本校の中期的目標である「学ぶ意欲を育むため、わかる授業を全教科で創造していく」ことをテーマに取り組んでいるが、「授業はわかりやすい」生徒57%・保護者63%、「教え方に工夫をしている先生が多い」生徒59%・保護者64%とほぼ昨年同様の結果であった。目標である「3年後には授業に対	【第1回：6月14日開催】 〈平成26年度学校経営計画について〉 ・授業改善をうまく進展させている。 ・不規則発言への対応がうまい教員は生徒に人気がある。 ・「まず、やってみて、駄目なら改善する」という“若さ”にあふれている。 ・若い教員の授業力を伸ばす学校である。

する生徒の肯定的な回答を70%以上にすること」に向け、組織的・継続的な授業改善の取組みの推進、教員間の授業参観の充実、2年間取り組んだパッケージ研修の成果を全体で共有し発展させることなど、さらなる授業力の向上をめざす取組みの充実が必要である。

- 『教養』の授業は基礎学習を中心に楽しく学べる」が昨年56%→今年64%と大幅にアップした。教養担当者の積極的な授業内容の検討および改善の結果と考える。

#### 【生徒指導等】

- 生徒全体での肯定的意見の割合は、24項目中21項目で50%を超えており、上位3項目は、「北淀高校に入学して良かった」76%（昨年76%）、「学校は体罰セクハラを許さない」75%（昨年78%）、「先生は親しみやすい雰囲気を持っていて話がしやすい」74%（昨年81%）であった。
- 学校に対しての印象度については、「北淀高校に入学してよかった」76%（昨年76%）、「子どもが北淀高校に入学してよかった」86%（昨年84%）、「学校に行くのが楽しい」61%（昨年61%）、「学校に行くのが楽しいと言っている」77%（昨年83%）と肯定的意見の比率が高いのに対し、「後輩に北淀高校進学をすすめたいですか」「知り合いに北淀高校進学をすすめたいですか」の項目においては、生徒47%（昨年45%）・保護者60%（昨年52%）であった。両者の間に依然として乖離はあるものの、その差が縮まる傾向が表れてきた。継続して原因を分析していく必要がある。
- 肯定的意見の低い項目は、「私は積極的に部活動に参加している」39%（昨年35%）、「学校で、保護者や地域の人たちとかかわる機会がある」39%（昨年40%）、「国際理解・国際交流について学習する機会がある」55%（昨年50%）、今年から項目に入った「将来の進路について学ぶ機会があり、進路実現に向けて熱心に指導している」は53%であり、さらなる取組みの充実、改善が必要である。

#### 【その他】

- 「先生は親しみやすく、話がしやすい」生徒74%（1年67%、2年69%、3年88%）であるが、「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」については55%（1年47%、2年53%、3年76%）であった。学年が上がるにつれ肯定的意見の割合が上がる要因として考えられるのは、1年生はまだ本校での生活が短く、多くの教員を知らないの、担任に頼っている場面が多くあるが、学年が進むにつれて知っている教員が増えていくことがあると思われる。入学当初から高校生活に早く馴染めるような取組みを一層充実させるとともに、学校全体としてカウンセリングマインドを持ってさらに丁寧に生徒指導に当たることが必要である。また、生徒が教育相談を有効に活用できるよう、啓発に努めることも必要である。
- 年度で肯定的意見の割合を比較すると、生徒は昨年度より下がっている項目が多く（23項目中14項目）、保護者は昨年度より上がっている項目が多くなっている（25項目中17項目）。教員はほとんどの項目において肯定的意見の割合が下がっている（26項目中22項目）。数値の低い項目に関しては、各分掌・学年・委員会・教科等において確認し、改善に向けて取り組んでいく必要がある。

- ・「高校生活支援カード」は、養護教諭には特に役立つ内容だと思う。
- 〈「北淀栄誉賞 Pride of Kitayodo」表彰者数の報告を受けて〉
- ・生徒に夢や希望を抱かせる学校になってほしい。“やればできる”という自信を付けさせる「北淀栄誉賞」の成果がこれから現れるはずである。
- ・同窓会長賞授与の時、舞台上の受賞者全員に向けて他の生徒全員に拍手をさせた。受賞者は誇りが持てたと思うし、一体感もあってよかった。
- 〈平成26年度入学者選抜について〉
- ・淀川を渡って通学する生徒が一定数入った。
- 〈基礎学力診断テストの結果報告を受けて〉
- ・進学希望者には早めに学力を引き上げる対応策ができれば良い。

#### 【第2回：11月2日開催】

- 〈平成26年度学校経営計画進捗状況について〉
- ・授業について、一般的にいう厳しい・優しいとは別の次元で生徒たちはみている。優しくても厳しくても、愛情のこもったやりとりをしていけば良いということ。
- ・授業に入る前に授業以外のやりとりで関係をつくる。つくれば授業もやりやすいし、満足度も上がる。
- 〈遅刻指導の進捗状況について〉
- ・3年生くらいになると、グループで遅刻してくることがよくある。一度グループ関係を整理してみるとよい。
- 〈「北淀秘伝の書」(仮称)プロジェクトチームについて〉
- ・意欲的な教職員が集まり「秘伝の書」(北淀高校の指導規定・方策集)を作ることの良いアイデアと思う。ぜひ進めてほしい。
- 〈中学校等への広報活動について〉
- ・オープンスクールには新しい通学地域から40人くらいは参加してほしい。
- 〈保護者からの「意見書」について〉
- ・意見書が提出された場合は、誰が考えてもその内容が的外れなものであったとしても内容の如何を問わず、とりあえず会長に一報する仕組みにしておいた方が良いのではないか。その上で、学校に任せる・協議会を緊急に開く等の判断をすればよいと思う。

#### 【第3回：1月31日開催】

- 〈パッケージ研修支援 報告〉
- ・プロジェクターを使うと非常に効果的である。最近の生徒は小中学校でICTに慣れているので高校に入って板書だけだと物足りないと感じる生徒がいるかもしれない。
- 〈第2回授業アンケート結果について〉
- ・情報や外国語は社会に出てからも大事で、社会に出てから役立つようなレベルが必要である。生徒が理解しやすいように熱心に授業を実施している。
- ・大阪府全体で見ても中堅どころの教員数が少ないが、指導してもらえる先輩がいれば経験の少ない教員の授業力向上に役立つだろう。若手教員の授業力をどのように上げていくかが課題である。
- 〈平成26年度「学校教育自己診断」アンケート結果について〉
- ・生徒の行事に対する評価がより高くなるように工夫してほしい。様々な見直しも必要ではないか。生徒主導型の行事を検討してみてもどうか。
- 〈遅刻指導について〉
- ・大きな成果が上がっている。さらに減るように一層の努力に期待したい。
- 〈「北淀秘伝の書」(仮称)プロジェクトチームについて〉
- ・中堅教員が少なくなっているところでもあるし、このような取組みは他校でも必要なことであろうと思う。授業でのつながりだけではない深いつながりがあるのが本校のいいところである。大切にしてもらいたい。
- 〈「平成26年度学校経営計画および学校評価(案)」について〉
- ・全体として、平成26年度学校評価はこの内容で妥当であると考えている。次年度に向けてさらなる向上をめざして奮闘してもらいたい。
- 〈平成27年度学校経営計画への提言〉
- ・先生方には若いうちに力量をつけていただきたい。全体として、平成27年度学校経営計画及び目標は妥当であると考えている。
- 〈保護者からの「意見書」について〉この間の提出はなし。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学ぶ意欲と基礎学力の育成	<p>(1) 基礎基本的事項の確実な定着</p> <p>ア、「教養A」のさらなる充実</p> <p>(2) 「わかる授業」をめざした授業改善と授業力向上への取組み</p> <p>イ、公開授業と授業アンケート等を活用した授業改善の推進と授業力の向上</p> <p>ウ、個に応じた学習指導の実践</p> <p>エ、基礎学力診断テストの実施</p>	<p>ア・教養科の中心的な担当者と会議を開き、「教養A」の学習内容が生徒の実態に即したものとなるように、絶えず改善を行う。</p> <p>イ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業、教員相互の公開授業、外部公開授業等を更に活発に実施する。教員相互の公開授業では授業者に対する助言を作成する。</li> <li>・教育センターのパッケージ研修またはそれに類する研修を継続し、教員各自の授業改善に向けた取組を更に充実させる。</li> <li>・授業改善の取組が組織的かつ継続的に充実して実施されるように、校内体制の整備を図る。</li> </ul> <p>ウ・生徒一人ひとりの学力をより伸ばすために、習熟度別・少人数展開授業、チームティーチングの充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学意欲の高い生徒に対して、1年時より長期休業前等に特別講習を実施する。</li> </ul> <p>エ・実施とその後の検討会議で生徒の学力実態を的確に把握し、課題の発見と授業改善に役立てる。</p>	<p>ア・授業アンケート、学校教育自己診断において、「教養A」に対する肯定的な回答の前年度比10%増。(平成25年度60%)</p> <p>イ・授業アンケート、学校教育自己診断の結果、授業に対する肯定的な回答の前年度比10%増。(平成25年度「わかりやすい」55%、「授業に工夫」61%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業等の回数が昨年度を上回ったか。授業者への助言の提出が前年度を上回ったか。(平成25年度：公開授業2回、助言11件)</li> <li>・授業改善に向けた取組みに広がり、深まりがあったか。</li> <li>・授業改善に向けた取組みを推進する校内体制の整備ができたか。</li> </ul> <p>ウ・実施教科・科目の授業に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(平成25年度：4点満点中数学I 3.0、C英語I 3.0)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通りに実施できたか。</li> </ul> <p>エ・各教科で具体的な課題を明らかにできたか。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、毎週教養科会を開き、授業内容についての検討・改善を行った。学習内容が生徒の実態に即したものとなるように、「教養A」で使用する学習プリントの全面改定を行った。その結果、生徒の学校教育自己診断における「教養A」への肯定率は前年度比10%増の66%を大きく上回った(60%→71%)。また、授業アンケートにおいて「授業に積極的に参加している」とした回答が、昨年度より0.2ポイント上昇した(4点満点中の3.1→3.3)。次年度は、生徒の実態に即した、さらによりよい学び直しができるように授業内容や指導方法等のさらなる検討・改善に努めたい。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>イ、第1回の授業アンケートの結果をもとに全教員、全教科、全学年が「振り返りシート」を作成し、課題の解決に取り組むなど全校的に授業の自己点検及び改善に取り組んだが、生徒の学校教育自己診断における「わかりやすい」、「教え方の工夫」への肯定率は、それぞれ(56%)(59%)と前年度とほぼ同じにとどまり、前年度比10%増には至らなかった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開研究授業等の実施回数は昨年度と同じ2回であったが、教員相互の公開授業の授業者への助言の提出数は21件で昨年度を上回ることができた。また、教員相互の公開授業がより有効なものとなるように実施方法等についての検討も行った。(○)</li> <li>・新着任者が授業改善に早く取り組めるように、従来は2学期に実施していた教員相互の公開授業の機会を1学期にも設定した。また、昨年度に引き続き大阪府教育センターのパッケージ研修を実施し、ICTを活用した授業についての研修を行った。公開研究授業には、他校の先生方にも参加していただき、充実した研究協議を実施することができた。(○)</li> <li>・授業改善に向けた取組みを推進する校内組織について、将来構想委員会で検討を進めており、今年度内には校内組織を立ち上げることができる見込みである。次年度は、新たに設けた校内組織が中心となって校内研修等を企画、実施し、授業改善に向けての教員の更なる意識向上を図るとともに、授業内容の研究・改善に全校を挙げて取り組み、生徒の授業満足度の向上にさらに努めたい。(○)</li> </ul> <p>ウ、昨年度に引き続き「数学I」、「C英語I」で1クラス2展開の少人数授業を実施し、さらにきめ細やかな指導に努めた結果、生徒の当該授業に対する肯定的な回答が前年度を上回った(4点満点中「数学I」3.0→3.1、「C英語I」3.0→3.3)。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学意欲の高い生徒に対して、従来から実施している長期休業前の特別講習を計画的に実施しただけでなく、今年度から新たに1年生の平常時の放課後講習を実施することができた。次年度は、少人数展開授業のさらなる拡充や補習の充実、放課後の自習室の確保などについて検討し、個に応じた学習指導のさらなる充実に努めたい。(◎)</li> </ul> <p>エ、基礎学力診断テストの結果、本校生の「義務教育で学ぶ範囲の理解度」がわかった。「義務教育で学ぶ範囲の理解」が低い生徒(1年生で69%、昨年度72%)また、昨年度よりも生徒の基礎学力に開きがあることもわかった。これらの結果をもとに基礎学力向上に向けた取組を一層進めた。次年度は、より詳細な検証を実施し、教科指導・進路指導にさらに活かしていく。(○)</p>

## 府立北淀高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2. 夢を育み、将来構想能力の育成を図る</p>	<p>(1) 夢を育む力をつける ア、生徒の社会認識、自己認識の促進 (2) 造形コースの充実 イ、造形コースの授業内容のさらなる充実 (3) 生徒の将来構想能力の育成 ウ、志学、キャリア教育のさらなる充実による個々の生徒にとって最適な進路の選択</p>	<p>ア・生徒の社会認識、自己認識を促進できる内容を入れるなど「FC（総合的な学習の時間）」等の充実を図る。 イ・専門コース「造形」がより生徒の期待に応えるものとなるように、授業内容等のさらなる充実を図る。 ウ・1年時からの系統的なキャリア教育プログラムの点検を行い、指導のさらなる充実を図るとともに、就職支援コーディネーターの活用を通して進路未決定率を下げる。</p>	<p>ア・FCの生徒の振り返りから「新しい発見があった」等、内容についての肯定的な意見が昨年度を上回ったか。(平成25年度:「人権教育」「進路学習」「国際理解教育」への生徒の関心度の平均62%) イ・授業アンケート、学校教育自己診断において、造形コースの生徒の「美術」に対する肯定的な回答が昨年度を上回ったか。(平成25年度87%) ウ・新たな企画など指導に広がりや深まりがあったか。 ・学校教育自己診断において、キャリア教育に対する肯定的な回答が昨年度を上回ったか。(平成25年度68%) ・未決定率を5%以下に。</p>	<p>(1) ア、FCについては、例年の取組みをもとに人権学習、進路学習、国際理解教育を中心に講演会、体験学習等を織り交ぜて実施した。学校教育自己診断における「人権教育」への生徒の関心度は「5% (69%→64%)」昨年度を下回ったものの、「進路学習」「国際理解教育」への生徒の関心度は昨年度をそれぞれ「1% (68%→69%)」「5% (50%→55%)」上回った。(「人権教育」「進路学習」「国際理解教育」への生徒の関心度の平均63%)。また、FCの内容についての肯定的な意見も昨年度を若干上回った。次年度も、内容のさらなる充実を図りたい。(○) (2) イ、昨年度新たに導入した陶芸用の電気窯をさらに活用し授業内容のさらなる充実を図るため、陶芸用の作業台などを新たに購入するなど、設備面での充実を図った。授業アンケートの結果において、造形コースの「美術」関係の科目の「授業中は、集中して先生の話の聞いている」「授業に積極的に参加している」とした回答の平均が、4点満点中3.4で昨年度と同じであった。造形コースの生徒の「美術」に対する肯定的な回答の率は85%で昨年度を2%下回ったものの、高い水準を維持することができた。また、学外の美術・工芸展等で入賞する生徒も珍しくなくなってきた。次年度は、専門コース「造形」が本校の特色の一つとなるように、さらに授業内容の充実を図り、生徒の満足度をより高めたい。(○) (3)・系統的なキャリア教育プログラムの点検を行い、従来から実施してきた取組みの充実を図ったが、新たな取組み等を行うまでには至らなかった。(△) ・学校教育自己診断において、キャリア教育に対する肯定的な回答が昨年度を「1% (68%→69%)」上回った。(○) ・全校を挙げて進路指導、就職先の開拓等に取り組んだ結果、進学実績、就職実績ともに結果の良かった昨年度とほぼ同じ状態を維持できており、進路未決定率は2%となった。次年度は、さらにキャリア教育を充実し、1年時より生徒の進路意識を高める取組みの一層の充実を図りたい。(○)</p>
---	---	---	--	--

## 府立北淀高等学校

<p>3. 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成 ア、頭髪指導の徹底を図る イ、通学マナーの向上 ウ、遅刻指導の強化 エ、挨拶の奨励 (2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上 オ、学校行事のさらなる充実 カ、部活動の活性化に向けた取り組みの推進 キ、「校内表彰制度」による顕彰 (3) 豊かな人間関係をつくる力の育成 ク、人権教育・国際理解教育のさらなる充実</p>	<p>ア・現行の頭髪指導を継続し、さらに指導の定着を図る。 イ・学警連携も含め、通学マナーの指導及び交通安全指導を強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。 ウ・昨年度に策定した指導方策に基づいて、全校を挙げて遅刻指導を行う。 エ・集会等いろいろな機会を通じて指導する。また、朝の挨拶運動や日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気を醸成する。 オ・生徒の自立心や主体的な行動力、集団への帰属意識等をより高めるために、体育祭、文化発表会等の学校行事のさらなる充実を図る。 カ・新入生歓迎会、部活動紹介、体験入部、部活動入部キャンペーン、部活動の発表機会を更に充実させるとともに、4月に入部し損ねた生徒が入部しやすい機会を新たに設ける。また、あらゆる機会をとらえて部活動を顕彰する。 キ・昨年度新設した「校内表彰制度」に基づき、頑張った生徒の顕彰に努める。 ク・「FC(総合的な学習の時間)」を中心にして、効果的な人権教育・国際理解教育を展開するとともに、人権教育・国際理解教育のさらなる内容の充実を図る。</p>	<p>ア・繰り返し指導を受ける生徒の数が昨年度(50件)を下回ったか。 イ・新たな企画など指導に広がりや深まりがあったか。 ウ・遅刻総数前年度比10%減。 エ・学校教育自己診断において、挨拶に対する生徒の意識(積極的に挨拶する:66%)に向上が見られたか。 オ・学校行事の満足度が昨年度を上回ったか。(平成25年度:64%) カ・啓発活動が効果的に実施できたか。 キ・「校内表彰制度」により表彰した生徒数が100名を上回ったか。 ク・実施後のアンケートで実施内容に対する否定的な回答を30%以下にする。また、生徒の感想やアンケートからどこまで生徒が考えたかを検証。 ク・実施後のアンケートで実施内容に対する否定的な回答を30%以下にする。また、生徒の感想やアンケートからどこまで生徒が考えたかを検証。 ・新たな企画など指導に広がりや深まりがあったか。</p>	<p>(1) ア、昨年度より基準をさらに上げて指導し、全生徒がより自然な状態の頭髪となっている。指導の基準を上げたにもかかわらず、繰り返し指導を受ける生徒の数は昨年度とほぼ同じ52件にとどめることができた。長期休業明けに違反者が若干増える傾向があるものの、全員が指導には素直に従った。次年度は、引き続き粘り強く指導を継続し、さらなる指導の定着を図っていきたい。(○) イ、生徒の登下校時の校門周辺での通学マナー指導に加え、学校周辺道路での通学マナー指導も新たに実施した。また、東淀川区役所と連携して通学マナーキャンペーンも計画した(雨天のため未実施)。(○) ウ、昨年度に新たに策定した指導方策に基づいて、全校を挙げて遅刻指導に取り組んだ結果、年間の遅刻総数は、前年度比35%減になっており、目標をはるかに超える成果が出た。次年度は、指導の徹底と定着を図り、全校を挙げてさらなる遅刻の減少に取り組む。(◎) エ、登校指導や門番の際に、日々教員側から挨拶を行った。また、集会等いろいろな機会を通じて挨拶の大切さについて話をした。その結果、実感としては、生徒の側から大きな声で積極的に挨拶をする生徒が増えたように感じられる。しかし、学校教育自己診断では、「積極的に挨拶をするようにしている」と回答した生徒の率が、昨年度の66%から62%に減少した。次年度は、更に多くの生徒がきっちりとした挨拶ができるように、自然に挨拶をする雰囲気の醸成に努めたい。(△)。 (2) オ、生徒がより主体的かつ意欲的に行事に取り組むように、体育祭において生徒の要求にあわせて、新たな競技を取り入れたり、文化発表会を更に盛り上げるためにオープニングDVDを作成したりするなど、内容の充実を努めた結果、学校行事への満足度は63%で、昨年度とほぼ同じであった。一昨年度の59%と比較すれば、ここ2年で学校行事が楽しいと感じる生徒の率が60%以上に定着してきた。次年度は、生徒がより自主的に活動できる取り組みを取り入れるなど学校行事の内容をさらに充実させて、生徒の満足度の向上を図りたい。(○) カ、より新入生の印象に残るように部活動紹介DVDを新たに作成したり、4月以降でも入部できることをアピールしたり、部活動紹介の機会を昨年度より増やしたりするなど生徒に対して部活動への加入を粘り強く呼び掛けた。また、クラブ員からデザインを募集してクラブ員Tシャツを作成し、クラブ員が部活動だけでなく、学校行事などでも活躍し、充実した高校生活を送っていることやクラブ員同士の一体感が見て取れるようにし、部活動加入に向けての生徒へのアピールにつなげた。次年度は、部活動の頑張りをアピールできる機会をさらに増やすとともに、保護者に対して生徒の部活動参加についての一層の協力をお願いしていきたい。(○)</p>
--------------------------------	--	--	---	---

## 府立北淀高等学校

<p>3. 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成</p>			<p>・上記取組みを粘り強く行ったにもかかわらず、部活動加入率は、25.3%と昨年度とほぼ同じにとどまり、目標の前年度比10%増には到達できなかった。しかし、部活動の活動そのものはさらに活発になり、公式戦等でもよい結果を残せるようになった。次年度も粘り強く啓発に努めるとともに、部活動に加入するメリットを伝える機会を新たに設けたり、生徒の興味関心があるような部の新設を検討したりして、 部活動加入率の向上を図りたい。(△)</p> <p>キ、昨年度に新設した「校内表彰制度」の規定に基づき、年間で約250名の生徒を表彰した(昨年度：118名)。今年度被表彰生徒の数が飛躍的に伸びたのを受けて、来年度は表彰基準を若干見直す予定である。生徒にはたいへん好評であり、次年度も、生徒のやる気をさらに喚起するため、積極的に表彰をしていきたい。(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ク、FC(総合的な学習の時間)を中心に行った人権教育、国際理解教育の教材等を最新かつ実状に合った内容の教材へと改訂した。どの内容についても生徒の否定的な回答は30%を下回った。また、5カ国により共同作成されたESDカリキュラムをより本校生の実態に合ったものに改良し、実施した。「持続可能な社会の実現のために、自分は何ができるのか」をほとんどの生徒が熱心に考えたことが、生徒の感想から窺えた。次年度も引き続き、より効果的なものにするべく検討を重ねながら実施していきたい。(○)</p> <p>・残念ながら新たな企画等を取り入れることはできなかった。(△)</p>
--------------------------------	--	--	--

## 府立北淀高等学校

<p>4. 家庭、地域との連携の強化と丁寧な生徒指導のさらなる推進</p>	<p>(1) 生徒理解と中退防止の取組みのさらなる充実 ア、大きな課題を抱えた生徒の組織的指導 イ、教職員の指導力のさらなる向上 ウ、中退防止 (2) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり エ、地域清掃活動や地域交流活動の充実 オ、広報活動の充実</p>	<p>ア・校内での組織的連携、家庭・中学校とのさらなる連携を進め、個別の指導計画を作成する。 ・教育相談室や保健室での生徒への丁寧な対応を通して、生徒が教育相談を更に有効活用できるようにする。 イ・精神科医師や大学の先生との事例検討会等を通して、配慮を要する生徒等への支援や指導に向けての教職員の指導力の向上に取り組む。 ウ・担任団、特に1年担任団と管理職、他の組織との連携を更に図るとともに、家庭との連携も含めてさらにきめ細やかな指導を行う。 エ・生徒、教職員、PTAが協力して地域の清掃活動を活発に行う。軽音楽部、和太鼓部、ボランティア部等を中心に高齢者施設や幼稚園、支援学校等との交流活動を促進する。 オ・不本意入学の減少のために広報活動のさらなる充実を図る。</p>	<p>ア・各種連携および個別の指導計画に広がりや深まりがあったか。 ・「教育相談」に対する肯定的な回答が前年度比10%増。 イ・昨年度に比べて、研修の内容等に広がり、深まりがあったか。 ウ・中退率5%以下。 エ・昨年度に比べて、取組みに広がり、深まりがあったか。 オ・新たな企画など、広報活動に広がりがあったか。</p>	<p>(1) ア・従来から本校で活用してきた調査用紙に高校生活支援カードを加えて、生徒の状況把握に努め、入学後の早い時期から個別の指導を行うことができた。大きな課題を抱えた生徒については、支援委員会で指導方針を検討し、必要な場合は個別の指導計画を作成した。また、学校だけでは解決できない事案については、SCや本年度配置いただいたSSWに相談したり、場合によっては、外部機関と連携したりして、指導に当たった。また、大きな課題を抱えた生徒についての個人懇談には、養護教諭も同席し、多様な視点での指導ができるようにした。(○) ・来室時に「来室理由書」を記入させるなど、生徒が相談しやすくなるような工夫を行った。学校教育自己診断において、「担任以外に相談できる先生がいる」が昨年度よりも5%上昇した(50%→55%)。次年度は、担任以外にも相談の窓口があることのさらなる周知と生徒が担任以外の教員にも相談しやすい雰囲気の醸成にさらに努めたい。(○) イ、精神科医師や大学の先生の協力を得て、大きな課題を抱えた生徒の指導についての教員研修を年4回実施することができた。一般的な理論と個別事例に即した実践的な指導の在り方について学ぶことができた。次年度も、専門家の先生の協力を得て、教員の指導力のさらなる向上を図りたい。(○) ウ、中退率は、昨年度より約2%減少し、目標を十分に達成することができた。次年度は、より丁寧な指導に取り組み、さらに減少を図りたい。(○) (2) エ、例年どおり年2回学校近くの公園清掃を行った。生徒会執行部の生徒が自主的にポスターを作製するなど昨年度よりも事前告知に力を入れた結果、80名を超えるボランティアの生徒が参加し、参加する生徒に広がりが見られた。この活動を通して生徒会活動に興味を持つ生徒も出てきた。軽音楽部、和太鼓部が、高齢者施設や幼稚園、支援学校等で演奏活動を行い、地域との交流活動もより活発に行った。また、学校の情報がよりよく保護者に伝わるように、携帯電話へのニュースレターの発行を検討し、次年度の本格実施に向けて、今年度は試行としてPTA実行委員への配信を行った。次年度は、現在の取組みを継続するとともに、さらに広がりや深化を図りたい。また、PTA活動を推進し、家庭との協力体制をさらに充実させるために、全学年で保護者の携帯電話、パソコンへのニュースレターの発行を実施したい。(○) オ、例年通り中学校訪問、中高連絡会、学校説明会を実施するとともに、昨年度に引き続き、本校への通学が比較的容易な旧他学区の中学校(29校)を訪問し、学校の説明と学校説明会の案内を行った。また、学校近隣の学習塾(162教室)も訪問し、学校の説明を行った。今年度新たに作成した本校までの自転車での所要時間と経路を示したアクセスマップと新たに作成した本校の最新情報を掲載した学校通信を本校の説明資料として活用した。地元の中学校に「出前授業」も実施した。次年度も、広報活動のさらなる充実を図りたい。(○)</p>
---------------------------------------	--	---	--	---

## 府立北淀高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5. 教職員の資質向上とOJTの充実</p>	<p>(1) 人材育成 ア、ミドルリーダーの育成 イ、初任者等教職経験の少ない教員の育成</p> <p>(2) 築き上げてきた指導方策の継承</p> <p>ウ、OJTの充実</p> <p>(3) ICT活用能力の向上</p> <p>エ、ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>ア・教育センターの研修なども利用し、ミドルリーダーの育成に努める。</p> <p>イ・首席等を活用し、初任者等の教職経験の少ない教員への計画的な校内研修を実施し、資質向上を図る。S-T分析等を活用した初任者等の授業分析を、1人につき年間2回以上実施するとともに、初任者等の校内研究授業を年間2回以上実施する。</p> <p>ウ・新転任の教員に対して、OJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。</p> <p>・本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が引き継がれるように、口伝だけでなく、記録化を図る。</p> <p>エ・校務処理システム等ICTの活用を更に推進し、校務の効率化を図る。</p>	<p>ア・外部研修等を積極的に活用し、首席等につながる人材を育成できたか。</p> <p>イ・S-T分析等を活用した初任者等の授業分析を、1人につき年間2回以上実施できたか。</p> <p>・初任者等の校内研究授業を年間2回以上実施できたか。</p> <p>・生徒による授業アンケートで肯定的な意見が55%を上回ったか。初任者等による振り返りにおいて肯定的な意見が多かったか。</p> <p>ウ・計画的・組織的に研修を実施できたか。</p> <p>・マニュアルの作成など、記録化できたか。</p> <p>エ・校務処理システム等の活用が校務の効率化に役立っているとする教職員の回答が前年度(96%)を維持できたか。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、府教育センターの「リーダー養成研修」等を積極的に活用し、首席につながるような人材は育成できた。次年度も引き続き、教育センターの研修なども利用するとともに、教員間のOJTを推進し、ミドルリーダーの育成に努めたい。(○)</p> <p>イ、・初任者一人当たり2回、授業のS-T分析を実施し、授業の進め方等についての研修を行った。(○)</p> <p>・教職経験年数の少ない教員による校内研究授業をICTの活用をテーマにして2回実施した。(○)</p> <p>・研究授業をした教員を含め、初任者等からは有意義であったとの感想を得た。しかし、生徒による授業アンケートでは肯定的な意見が55%を上回ることができなかったものが出た。次年度は、授業力の向上を中心にさらに研修の充実を図りたい。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ウ、・新転任の教員が本校での指導に戸惑わないようにするために、従来のOJTを中心とした研修だけでなく、今年度新たに新転任の教員を対象とした研修を2回実施した。(○)</p> <p>・本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が継承されるように、本校に長く在籍する教員が中心となって、指導方策の記録化を行い、最終的に冊子にまとめることができた。次年度は、できあがった冊子を活用し、新転任の教員の研修に役立てたい。(◎)</p> <p>(3)</p> <p>エ、表計算ソフト等の活用が苦手な教員を対象にした講習会を今年度新たに開くなど、校務処理システム等を円滑に活用できるように取組みを進めたが、学校教育自己診断において、教員の78%が「導入は円滑に進んでいる」と回答しているものの、「校務の効率化に役立っている」とする回答は、個人情報の管理がより厳格になり、制約が増えた影響か、昨年度の96%から60%へと大きく減少した。次年度は、校務処理システムのさらなる活用を図るとともに、校務の効率化に向けてICTの活用をさらに進めたい。(△)</p>
---	--	---	--	---